

陽気だより

養徳社 検索

No.5 2007.8.15

創刊号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。

火 水 風

(中山正善二代真柱の「巻頭言」より)

昭和二十四年一月二十六日の早朝の事であった。

大祭のおつとめにかろうとした時、私は法隆寺金堂の炎上を耳にした。あの様に、国を挙げて、否世界の耳目をあつめて保存に留意されていた金堂の炎上、それは夢にも思わなかった事であり、且又信ずる事すら出来ない事であったが、その想像もつかぬ事柄が、しかも大祭の朝に、事実となって起つたとは、私には、よそ様の災害とはどうしても考えられなかった。

○ 明治二十年旧正月二十六日、それは教祖様が子供の成人をせき込まれる上から、身をお隠しになった日である。

さあ／＼それ／＼の処、こゝろ定めの人衆定め、事情なければ心がさだまらんむねしだいこゝろしだい、心のとくしんできるまでは尋ねるがよい、おりたとい

ふたらひかんで。

と、仰せになって、身を隠して、子供の心の成人を促された日である。子供の成人の節をあたえ、事情を見せ、急き込まれたその御命日に、此の火の事をお見せになったと思ふとき、世界の人々には、あまりに我が身勝手な悟り方と言われるかも知れぬが、私の心には、此の二つの事——一の神さまの火の事と、子供の成人を節づけられた此の御命日——が思い合わされて、今迄申訳なかったとの感が強く湧いた。

○ その日の午後、又それに続く日に、私は此の自分の心に悟つた点を道の人々に話した。そして、親神の理を、更に更に立てる事の急き込みであるとの悟りを伝えた。

○ 火の用心。

とは、よく言われる言葉である。それは決して間違つた事とは思われぬ。しかし、火の用心と言う気持の中には、何となく、火に対する怖れ、

火の荒い働きに対する注意、警戒と言ふ感じが含まれている。

○ 火はあぶないもの、元も子もなく一なみにするもの。千仞の功を一簣に欠くもの、だから火には用心せよ、火を警戒せよ。と言う様な気持が火の用心の言葉に強く現われている。そして火がなくては、ぬくみなくては一瞬とも生きられぬ火、ぬくみの御恵と、それに対する心の親しみ、と日々火から受けている恩恵に対する感謝の念が出ているであらうか。

○ 火の用心よりも、火を大切にすることを私達は怠っていた様に思う。作用のみを考えて、その根本の理に対する親しみと、大事にする気が欠けては、一の神としての火と水とに親子の理を受取って頂けない事となるだろう。

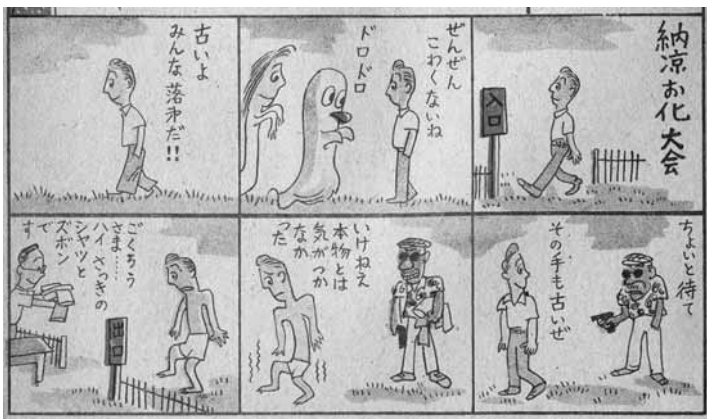
○ 火の用心より、更に火を大切に、私はこの理を深く心に悟つた。大祭の日の法隆寺の火災、火と水とは一の神

母の教え、私の心には、意味なく無関係な事には思われぬ。

○ さあ／＼実があれば実があるで、実をいへばしろまい、眞実といふは、火、水、風。さあ／＼実を買ふのやで、價をもつて実を買ふのやで。水や風についても同じ事である。

○ 私達は実を以て実を御守護頂ける様、誠眞実心の成人に精を出したい。

(本文より抜粋・現代仮名遣いに改変)



昭和24年8月号の「陽気」より

おつとめの手

よく母が聞かせてくれたが、当時（母の信仰はじめた明治十六、七年ごろのことらしい）誰か危篤の者があると、講中の者が何名かその家へ行って、臥ている病人の枕辺で手踊りのおつとめをしたものだそうである。このつとめによって無い生命でも切り継いでいただけののだという信仰が、人々の心に深く刻まれていたためだろうと想像される。

「てんりわうのみこと」は、この右手の動きは「月様」をお招き申し、左手の動きは「日様」をお招き申す意であるから、そういうつもりでお手を振らせていただくと、思召に添うた意味の形が手振りに表れるかと思う。

あしきをはらうてたすけたまへ てんりわうのみことをお手であるが、「あしきをはらうて」は、言うまでもなく胸の中のもろもろのほこ

り、を払いのける意であり、次の「てんりわうのみこと」は、この右手の動きは「月様」をお招き申し、左手の動きは「日様」をお招き申す意であるから、そういうつもりでお手を振らせていただくと、思召に添うた意味の形が手振りに表れるかと思う。

あしきをはらうてたすけたまへ てんりわうのみことをお手であるが、「あしきをはらうて」は、言うまでもなく胸の中のもろもろのほこ

り、を払いのける意であり、次の「てんりわうのみこと」は、この右手の動きは「月様」をお招き申し、左手の動きは「日様」をお招き申す意であるから、そういうつもりでお手を振らせていただくと、思召に添うた意味の形が手振りに表れるかと思う。

ちかごろ世相ものはげ

強すぎるものは―吉田首相の向こう意気
弱すぎるものは―上野の山の警視総監
太すぎるものは―進駐軍と練り歩く足
細すぎるものは―民のかまどから上る煙

長すぎるものは―鐘一つ鳴るまで
短すぎるものは―結婚から離婚まで
広すぎるものは―国会議事堂
狭すぎるものは―楽しいわが家

（『陽気』創刊号より）

◎インフォメーション◎
8月20日 名著復刊!!
松田武信著（旭園分教会前会長）『歩いただけが道』を装丁も新たに復刊します。静岡、東京、大阪、そして四国松山へと、おしどり夫婦が歩んだ汗と涙の単独布教記録です。
（B6判・定価1,365円）



8月25日 発売!!

『陽気』読者講演会「うつ病の早期発見・早期治療のコツ」（菅原圭悟・憩の家精神神経科元部長）の講演CDを発売します。身近な人の「サイン」を見逃さず、「早期治療」を勧めることはおたすけへの一歩です。ぜひ参考に。

（定価1,260円 送料150円）



CDは他に、「さあ、これからや・植田与志夫」「笑いと健康・村上和雄」「生き方が病気を決める・今中孝信」「家族のきずなを考える・宮崎伸一郎」などがあります。

『生き方メッセージ』（松宮守著 新書判・定価840円）は、人の動きや思いを、さまざまな視点から書き綴ったエッセイ集。『気づき』を与えてくれる一書です。

高野友治氏との思い出が一杯『思い出のスケッチ』は、画家の青山文治氏が高野友治氏と歩いた伝道ゆかりの地の思い出を、美しい絵とともに語ります。（四六判上製・定価1,470円）



※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。

☎0743・62・4503

養徳社 よもやま話

★編集部S氏は、大の居酒屋好き。会社からの帰り道、お目目ぱっちり新しい店を探して歩いて帰る。先日「おもろい店があるから」とついて行ったところが、お好み焼きも食わせる居酒屋。何がおもしろいのか!? ★JR天理駅の構内に『陽気』の広告があるのをご存知でしょうか? この度リニューアルいたしました。また、近鉄天理駅の構内にも近々掲示する予定です。みなさん、どこにあるか探してみましょ。

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。

料金は、記事中で一回二万円から。詳しくは 養徳社広告係まで

☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。ますよう、お願い申し上げます。

養徳社